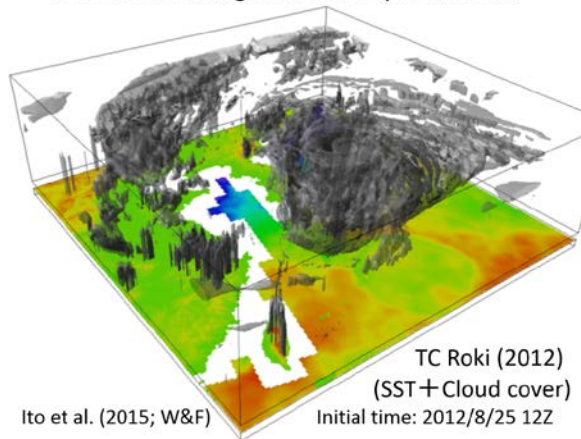


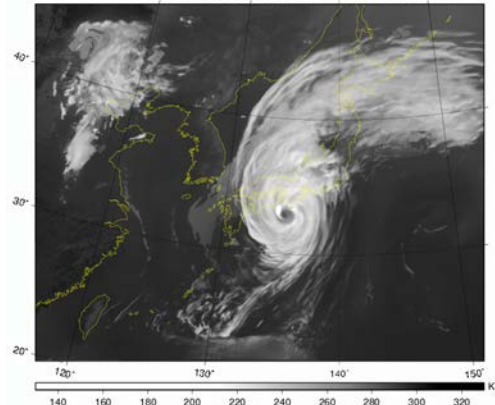
## 新年特別講演会・懇親会のご案内

近年、集中豪雨などの局地的な気象変化や大型台風の来襲などが地球規模で顕著になり、それに伴う災害が多くなりました。一方で気象・海象の予測技術は向上しています。災害を未然に防ぎ、被害を最小限におさえるには、気象・海象の予測技術は重要となります。本講演会では、この分野の最新の研究とその成果をわかりやすく紹介します。講演会の後には懇親会も予定しておりますので、多数のご参加をいただきますようご案内申し上げます。

TC forecast using an A-O coupled model



MSM\_IR INIT 1959.09.26 00UTC KT=07  
DATE 1959.09.26 07UTC



データ同化で再現した伊勢湾台風の疑似衛星画像 (Kawabata et al. 2012)

大気海洋結合モデルによる台風通過時の海面水温分布 (Ito et al. 2015)

### 記

- 日 時** : 特別講演会 平成 28 年 1 月 15 日 (金) 15:40~17:10  
懇親会 平成 28 年 1 月 15 日 (金) 17:30~19:30
- 会 場** : 神戸クリスタルタワー3 階クリスタルホール  
(住 所) 神戸市中央区東川崎 1 丁目 1-3 (JR 神戸駅海側すぐ)  
(連絡先) 080-6135-0996 (当日のみ有効)  
\*特別講演会、懇親会共に本会場にて開催いたします。
- 参加費** : 講演会 無料  
懇親会 一般 5,000 円, 家族・学生 2,000 円

**講演題目** : 台風の予測精度向上に関する研究・開発と最新の成果

**講 師** : 瀬古 弘 氏

気象庁気象研究所予報研究部第二研究室室長

国立研究開発法人海洋研究開発機構シームレス環境予測研究分野招聘上席研究員

2013 年の台風 30 号は高潮によりフィリピンのタクロバン市に壊滅的な被害を与え、今年も台風 21 号により与那国町で全国歴代 4 位の 81.1 メートルの最大瞬間風速が観測されるなど、台風は洪水や土砂災害だけでなく、船舶安全運航や港湾施設にも大きく影響を与える。台風による被害を軽減するためには、台風の発生や発達、経路や強度をより早く、より正確に予測することが必要である。本講演では、気象研究所予報研究部の成果を中心に、台風の発生や強度等をより正確に予測するために開発している「観測データを用いた数値予報モデルの初期値を改善する手法(データ同化)」の実験結果や、数値予報モデルの出力を用いた高潮予測等について報告する。また、台風や集中豪雨等に流入する水蒸気量を得る船舶 GPS 観測、ひまわり 8 号の大気追跡風観測などの最新の研究トピックスについても紹介する。

**申込締切** : 平成 28 年 1 月 8 日 (金)

**問合せ先** : 日本船舶海洋工学会関西支部事務局

TEL : 06-6879-7593 FAX 06-6879-7594

携帯 : 080-6135-0996 (1/15 のみ有効) E-mail : k.office@jasnaoe.or.jp